

都道府県別賞一等

無駄をなくせ

北海道 苫前町立苫前中学校 三学年

本田 愛珠

『生命保険はお金の無駄。』

私はこれまでずっとそう思っていた。病気やケガで入院するのはほとんどが高齢者だろうし、最近では寿命も長くなってきている。保険料を払うよりも貯金した方が確実に合理的だ。

しかし私が小学五年生の時、祖母が急遽入院し、手術することになった。その時の祖母は精神的にも参っていたようで、情緒不安定になったり、落ち着きを取り戻した後も不安そうにしていた。初めて目にした祖母のそんな姿に私は戸惑った。入院と手術はこんなにも祖母を不安にさせてしまうのだろうか。そんな疑問は母と祖母の会話で解決した。
「どうしたの。」

「うーん。入院費も手術のお金もばかにならないでしょ。ただでさえ、お金もそんなにないのに……。」「
祖母は自分の治療費で祖父や母達に迷惑を掛けてしまうことが不安でしょうがなかったらしい。生命保険に加入していたことで、自己負担は減ったらしく、退院後祖母は以前の明るさを取り戻していた。

その翌年、次は祖父が入院、手術をすることになった。祖父は私が生まれる前にも手術の経験があるらしく、祖母の時のような不安さは見られなかった。しかし、長時間の手術を終え、ほっと一息ついていたところで医師から余命宣告をされた。「長くて三年。」と。信じたくはなかったが、色々なチューブにつながれた祖父を見て納得してしまう自分がいた。そして昨年の祖母の言葉を思い出した。自分の治療費で家族に迷惑を掛けたくない、そう祖父も思っているのだろうか。死ぬとなれば葬式代、埋葬費などの出費が多く、家族に迷惑を掛けてしまうと、痛みの中で悩んでいたのだろうか。

中学生になり、生命保険に興味を持った私はインターネットを使って調べるようになった。

まず始めに、私と同様に『生命保険はお金の無駄。』という考えを持つ人が多くいた。「万が一」が起これなければ保険料がもつたいたくない、貯蓄に余裕がある、自分が死んでもお金を受け取る人がいないなど多くの理由があげられている。二〇一五年の一世帯あたりの生命保険料の年間払込額は約四十万円となっていることから、決して安くはないことがわかる。

第54回中学生作文コンクール

しかし、生命保険料が高いにもかかわらず、日本の生命保険世帯加入率は約九割と高くなっている。一体どうしてだろうか。生命保険は大きくわけて三種類ある。万が一の場合の死亡保障、病気やケガの入院費や治療費を保障する医療保障、老後の生活資金や子どもの教育資金などの中長期的な貯蓄ができる老後・貯蓄保障。これらの保障を年齢、家族、職業などに合わせて組み合わせるのが生命保険だ。そこで自分に必要のない保険に加入してしまえば無駄が生まれていくのだろう。逆に言えば、自分に必要な保険だけに加入すれば無駄をなくすと同時に「万が一」に備えることもできる。

生命保険に入るにあたり、まず大切なのは「万が一」に備えることではない。自分にあつた生命保険に入り、無駄なく、「安心」を生みだすことだ。それができれば「万が一」に備えることは、とっくにできているのだろう。